

会 議 録

会議の名称	令和7年度第2回坂戸市男女共同参画審議会
開催日時	令和8年2月10日(火) 午前10時00分開会・午前11時30分閉会
開催場所	坂戸市勤労女性センター 新館会議室
議長(会長)	蓼沼 康子
出席者	中島 京子、足立 憲治、久住 毅、小林 陽子、蓼沼 康子、田村 明子、 内野 敦司、宇佐美美巳子、清水 憲一、関口 久美子、島田 悦子 11名出席
欠席者	2名
事務局職員	浅野総務部長 人権推進課 利根川課長、佐藤副課長、栗原係長、小高主任
傍聴者数	0名
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 男女共同参画に関する市民意識調査の結果について (2) 第4次坂戸市男女共同参画基本計画(後期計画)策定スケジュールについて (3) その他 4 閉 会
配布資料	1 令和7年度第2回坂戸市男女共同参画審議会次第 2 坂戸市男女共同参画に関する市民意識調査報告書(案)(資料1) 3 第4次坂戸市男女共同参画基本計画(後期計画)策定スケジュールについて(資料2) 4 坂戸市男女共同参画に関する市民意識調査報告書(案)(資料1)(正誤表) 5 人権ポケットブック① 女性と人権
議 事 の 経 過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	1 開 会 2 あいさつ
議長(会長)	3 議題 (1) 男女共同参画に関する市民意識調査の結果について
事務局	<資料1により説明>
委員	前回の調査から回収率が15.8%上がった理由と、インターネットでの回収割合を教えてください。

事務局	<p>前回から15.8%増の要因としては、前回調査から取り入れた、「ネット回答」が浸透してきたことが一つと、今回は半ばほどに礼状兼督促はがきを送ったことも効果が高かったのではないかと思う。また、社会的に男女共同参画やジェンダーに対する関心が高くなっていることも一つの要因かと思う。ネット回答の数字は後ほど回答させていただく。</p>
議長（会長）	<p>ネットでの回答はかなり多いのか。</p>
事務局	<p>前回よりは多くあった。ネット回答の方は前半に、郵送の方は督促のはがきの後に数多く来たので、傾向があるかと思う。</p>
委員	<p>2点ある。70歳以上が33.2%という回答者は、70歳代と80歳代、それぞれどういう比率でいるのか。33.2%もあるのに、70歳以上で括ってしまって良いのか。可能であれば分けたほうが良いと思う。</p> <p>学校教育の場は平等であるとの回答が多いことは、どこの自治体のアンケート結果にも共通しているが、実際には平等ではなく、文部科学省自身が「男女に格差がある。」と言っている。何に男女格差があるかという、小学校では女性教員が6割以上超えているという実態があるが、小中高とだんだん管理職の割合が下がっていく。報告書を見た人は、学校教育の場は平等と再認識するため、これがそのまま報告書に載っていただけで良いのか疑問である。</p>
事務局	<p>年代別の件だが、2,000人抽出すると、人口割合で70歳以上が多く、70歳代が16.9%、80歳代が11%、90歳代が1%になっている。全部を合わせると約30%のため、回答もそれくらいになってしまう。ほかの年代については、大体10%、40歳代50歳代くらいは17%くらいである。では、若者を増やせば良いのかという、今度は回答率が悪くなる可能性がある。結果70歳代以上が3割になってしまうが、他の意識調査を見ても同じような状況である。</p>
議長（会長）	<p>例えば19歳以下に関して、この0.9%というのは何通送って、何通返ってきているのか。全体の回答の中で、19歳以下が0.9%という理解か。</p>
事務局	<p>19歳以下については、55人に送った。回答数の996人のうち19歳以下割合が0.9%となる。</p>
委員	<p>高齢者が多いからいけないというわけではなくて、70歳以上とまとめてしまうことが良くないのではないか。</p>
事務局	<p>次回の調査では考慮したい。</p>
議長（会長）	<p>もう一つの「学校教育の場は平等」に関する意見に対して、坂戸市としてはどのように考えているか。</p>
事務局	<p>おそらくこちらの回答された方は自分の学校生活を思い出したり、色々な情報を聞いたりして回答しているのだと思うが、実質的には教員の管理職に対する男女差というのがあり、男女平等ではないという意見があるというのは理解している。学校教育課にも伝え、どのような施策ができるかというのを考えていきたい。</p>

委員	そういうデータも文部科学省から出ており、研修については教員や教育委員会に対しても行っているが、なかなか広く知る機会がないのだと思う。
委員	女性の管理職は10%と非常に低い割合で。小学校では随分女性の管理職が増えてきたが、中高と大学に至ってはほとんどいない。最近増えつつあるが、少ない。
議長（会長）	小学校はいかがか。
委員	今の坂戸市の小学校で考えてみても、男性の校長が多い。ただ、管理職になるチャンスは男女全く平等であり、特に男性だから女性だからということはない。8ページの“優遇されている”という言葉自体がどうかというところがある。
議長（会長）	高等学校ではいかがか。
委員	坂戸高校については、教頭が男性と女性で2人いる。
議長（会長）	必ず男性と女性を置くのか。
委員	そういうことではなく、幸いそういう配置になっている。私の前任者は女性校長で、その時には女性校長と女性教頭、男性教頭というチームだった。校長・教頭になる機会は本当に平等である。ただ、生徒の中では、例えば生徒会長は割と女性が多い。今も本校の生徒会長は女性。昨年度も女性だった。体育祭の団長は男性が多い。機会は平等だが、目指したいものはまちまちだと思う。
議長（会長）	他はいかがか。
委員	先生は、最近では減ってきたが長時間労働が多い。家庭やお子さんがある女性の先生たちは早めに帰りたいというのもあり、なかなか希望されないというのもあるので、そういう方々の環境が変わっていかねば変わらない。今なかなか先生を希望する若い人も少ない。
議長（会長）	男女共同参画とは別の意味で問題。先生が減ったらどうなるのか。
委員	こども自体が少なくなっており、どうしても学校や先生は少なくなっている。
議長（会長）	他はいかがか。例えば理系に進む女子をどうするか。社会全体として理系に進む女子を育成する必要性というのを言っていると思うが、なかなか。高校のカリキュラムがどうなのかという説もある。坂戸高校は女子が理系を望むというのは増えているか。
委員	割合として、女性のほうが多いということではないが、大勢いる。
議長（会長）	理系といっても色々あるから、それを上手く生徒たちに伝えていく必要性を強く感じている。大学も理系の学部のかたちを変えているので、女性が理系に進みやすくなっている。理系に進もうと思う気持ちを持たせる、潰さないっていうことも大事なのではないかと。学校現場が平等であるということに対しては多少問題意識を持ったかたちで、私たちは接していく必要があるのではないかとと思うので、行政は「学校は大丈夫だ。」と思わないほうが良い

	と思う。他に何かあるか。
委員	85ページのポジティブアクションに対して、家族の男性2人から「平等だったら実力だけでやれば良いじゃないか。」という意見があった。ポジティブアクションについて、もう少し行政のほうから出していくと、意識も変わってくるのではないかと感じた。
事務局	行政としても、ポジティブアクションという言葉自体をあまり知らない人もいるかと思うので、広報に男女共同参画トピックを掲載する等、周知を図っていきたいと考えている。
議長（会長）	「ポジティブアクションはなぜ必要なのか。」が理解出来ないと、「能力は平等なのだから。」ということになりかねない。行政も理解してもらった上でキャンペーンをしてもらえればと思う。
委員	ポジティブアクションについては、人によってかなり考え方が違う気がする。
議長（会長）	自由意見を見ると、色々な意味でアンケートの意義を考えさせられる。これをどのように受け取るかは大きな問題。アンケートは良いことだが、それをしっかり理解しないと、単純な扱いをするのは非常に危険だと思う。ただ、多様な意見があるということは理解していく必要があるのではないか。
事務局	自由意見に138人がわざわざ書いていただけるということは、大変ありがたいことだと思っている。こういった自由意見も含めて反映していければと考えている。
事務局	先ほど質問があった、ネット回答の数字について回答する。今回の996名のうち、255件がネット回答になる。前回679件のうちの121件がネット回答だった。回答件数としては倍になっている。
委員	自由意見に記載のある、送信ボタンがなかったから、手書きで書いたというのは。
事務局	ネット回答のフォームについては、作成した担当課に伝えたい。
議長（会長）	議題（1）男女共同参画に関する市民意識調査の結果については、承認することとしてよいか。
委員	（異議なし）
議長（会長）	議題 （2）第4次坂戸市男女共同参画基本計画（後期計画）策定スケジュールについて
事務局	<資料2により説明>
議長（会長）	議題（2）第4次坂戸市男女共同参画基本計画（後期計画）策定スケジュールについては、承認することとしてよいか。
委員	（異議なし）
議長（会長）	議題 （3）その他

委員	先ほど条例の周知があまりなされていないという話だったが、私も全くその通りだと思う。家族に聞いても、反応が薄いし、坂戸市の男女共同参画活動の本気度が市民に伝わってこない。立派な報告書が出来て、携わっている方が一生懸命やっているのは伝わってくるが、市民には浸透していないと思う。
事務局	こちらとしても住民の意識醸成が重要だと考えている。市民にきちんと伝わるように検討していきたい。
議長（会長）	法律を作るということと、みんながそうだと思うこととの違いを埋めていくのが行政の仕事だと思うので、私たちも審議会委員として、今のように「まだ伝わっていないよ。」というのを市に伝える。その役割も審議会委員にはあると思うので、行政と一緒に頑張ってぜひ色々な情報を教えてもらえれば、行政も動きやすいと思う。
委員	自由意見を読んでいて、「図書館でチラシを見て、自分がDVを受けていることに気が付いた。」というのがあった。やはりここでやっていることはとても大事なことで、それなりに意味があるのだと思った。何かの形で続けていくことが大事だと感じた。
議長（会長）	他にいかがか。
委員	次の計画を立てるにあたって、庁内の部署の中で作られていくかと思うが、今まだ決定していない国の第6次計画には、ウェルビーイングや女性に選ばれる地域づくり等、新しいことが挙がっているが、坂戸市では意識調査と庁内の課題で作っていく予定か。国の動きを参考にする予定はあるか。
事務局	国の第6次計画については、勉強しながら新しい計画書に入れていきたいと思う。また、人権推進課だけではなく多くの庁内の部署と事業計画を作っているの、そちらのほうにフィードバックしながらどういった事業が新しく反映ができるのかを策定部会や庁内連絡会議で話し合っていきたいと思っている。
委員	まちづくりに力を入れているところは、男女共同参画を中心にもってこようとしているところが多い。周りの自治体が子育て支援やまちづくり、女性に選ばれるということに力を入れている中で、坂戸市も力を入れていかないと。若い人や女性が皆、都会に行って戻ってこないというのが大きな課題になっているので、戻ってくるような地域にしていかないと、いずれは坂戸市も少子化になっていくのではと非常に感じている。
事務局	坂戸市も子育てには力をいれていると自負している。ワンオペではなく、男女問わず子育てに参加していただく。そのための子育て支援も入れていき、男女共同参画も含めた、若い方、子育て世帯が転入してくれるような坂戸市を目指していきたいと思っている。
議長（会長）	坂戸市が衰退しないように頑張っていきたいと思う。
事務局	4 閉会